



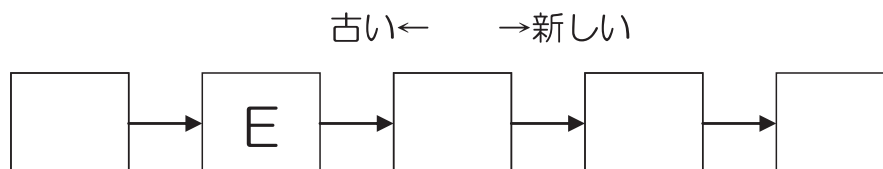
地質年表と地質図 ～地球の記憶～

地層や化石に基づいて設定された時代区分を「地質時代」と呼びます。地質時代は、古い方から先カンブリア時代、古生代、中生代、新生代で、それぞれが細分化されています。このような時代区分の境界では、生物の大量絶滅がくり返し起こっています。なかでも、最も大規模な大量絶滅は、古生代と中生代の間（ペルム紀末）で起こりました。研究の結果、このとき生物全体の90%が、絶滅したと考えられています。

ここでは、地質時代と沖縄県の地質図について、調べてみよう。

1. 下記の A～E の各文は当時の沖縄で起こったできごとです。地質年表を参考にしながら、できごとを古い順に並べてみよう。

- A: 沖積層や海岸にノッチと呼ばれる凹みが形成された。
 B: 「島尻層」が形成された。
 C: 「トムル層」が形成された。その後、地下 20～30km の深さで変成作用を受けた。琉球列島に日本人の祖先となる「ヒト」やシカ類などの動物がユーラシア大陸から移動してきた。
 D: 深海に生息する生き物の生痕化石が見られる「嘉陽層」が形成された。
 E: アンモナイトの化石を含んでいる「今帰仁層」が形成された。



2. 沖縄県の地質図の「石垣島」と「宮古島」を比較して、気づいたことを書いてみよう。

3. 沖縄島の「北部」と「中・南部」を比較して、気づいたことを書いてみよう。